



Title	Exploring the Psychology of Entrepreneurship: Evidence from Asia Pacific
Author(s)	Khalid, Saddam
Citation	大阪大学, 2019, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/72445
rights	
Note	やむを得ない事由があると学位審査研究科が承認したため、全文に代えてその内容の要約を公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

Abstract of Thesis

Name (Saddam Khalid)	
Title	Exploring the Psychology of Entrepreneurship: Evidence from Asia Pacific (企業家精神の心理学的探求：アジア太平洋地域における実証研究を通じて)
The psychology of entrepreneurship is an emerging research field that has much to offer to enhance the understanding of entrepreneurship at a personal, social, societal, and economic level. The current research aims to contribute to the emerging research field by offering insights from the Asia Pacific region through a series of studies on the psychological variables relevant for an in-depth understanding of the psychology of entrepreneurship in the Asia Pacific region. The first study is about the role of mindfulness in the entrepreneurial process. The second study is about the role of empathy in the opportunity recognition process. The third study is about the role of intrinsic religiousness in the ethical decision making of entrepreneurs. The fourth study is about the role of spiritual and psychological capital in entrepreneurial passion. The fifth study is about the theory of planned behavior and entrepreneurial intentions across different cultures. The current research discusses some overlooked issues in the psychology of entrepreneurship with the aim of advancing the theory in entrepreneurship literature. The research also discusses limitations and future research directions for entrepreneurship scholars interested in the psychology of entrepreneurship. The current research also has implications for practitioners to utilize the evidence-based knowledge for entrepreneurial success.	

論文審査の結果の要旨及び担当者

氏 名 (Saddam Khalid)			
	(職)	氏 名	
論文審査担当者	主 査	教授	開本 浩矢
	副 査	教授	延岡 健太郎
	副 査	准教授	中川 功一
	副 査	教授	関口 倫紀 (京都大学)

論文審査の結果の要旨

[論文内容の要旨]

本論文は、近年になって注目されつつある企業家研究への心理学的アプローチを用いた理論研究および日本、パキスタン、マレーシアというアジア太平洋の3地域で行われた複数の実証研究を報告し、アジア太平洋地域における企業家活動に関する心理学的諸変数の役割および効果についての総合的理解を深める目的で執筆されたものである。

本論文は全8章で構成されている。まず第1章において企業家研究に心理学的アプローチを適用することの重要性と本論文全体の構成および概要が説明された後、第2章では、企業家研究の動向を包括的に展望し、後の各章で用いる心理学的変数を中心とする理論枠組みについての説明を行っている。

第3章では、幅広い領域で注目されるマインドフルネスという心理概念を企業家研究に応用することによって、マインドフルネスという心理状態が企業家の認知および感情機能に影響し、不確実性の高い環境下における企業家による事業機会の発見、事業創造、様々な行動および意思決定に有用な役割を果たすことを論じている。

第4章では、企業家活動における事業機会の発見に「共感」という感情的な心理機能が果たす役割について、日本およびパキスタンで行われた実験研究が報告されている。先行研究では「他者視点取得」という認知機能が企業家による事業機会の発見を促進することが実験的研究で明らかになったが、本実験結果からは、他者視点取得という認知機能に共感という感情機能が加わることで、事業機会の発見への好影響がさらに増加することを示している。

第5章では、企業家が有する信仰心の心理調整機能に着目し、信仰心が企業家における倫理観の減退や非倫理的意思決定を抑制する役割について、パキスタンおよびマレーシアで行ったサーベイ調査に基づく実証研究を報告している。分析の結果、企業家が有する信仰心の度合いが高い場合に倫理観の減退が抑制され、その結果として非倫理的意思決定が抑制されることが示された。

第6章では、スピリチュアル資本および心理資本という比較的新しい心理学的概念を企業家研究に適用し、パキスタンおよびマレーシアで行われたことサーベイ調査の分析に基づき、スピリチュアル資本が心理資本の醸成を介して企業家の情熱に影響を与えることを示している。

第7章では、計画的行動理論に基づいた起業意図の予測モデルを日本とパキスタンという異なる文化を持つ国で実施したサーベイデータを比較分析することにより、国民文化の違いが、計画的行動理論が示唆する3つの要素が起業意図に与える相対的な重要性に影響を与えることを示している。

第8章では、総合考察および結論として第3章から第7章までで行った5つの理論研究および実証研究を総括し、本論文の学術的貢献の評価と限界点、および将来研究への期待が述べられている。

[審査結果の要旨]

本論文では、経済学的視点や政策的視点などを中心に行われるメインストリームの企業家研究とは異なり、心理学的変数を積極的に理論枠組みに取り入れていくことで、企業家個人の視点から企業家活動を理解しようとする精力的な研究成果がまとめられている。個々の実証調査やデータ分析においてやや粗削りな点が見受けられるものの、企業家研究に新たな視点を加えることで当該研究分野を発展させようとする強い意志に支えられるかたちで一定の成果が得られた本研究の学術的貢献は評価に値する。以上より、本論文は、博士(経営学)を授与されるに値する業績であると判断する。